



俳優
勝村政信

彩の国さいたま芸術劇場 芸術監督・演出家
蜷川幸雄

公開対談シリーズ第19回

NINAGAWA 千の目

蜷川作品にはなくてはならない存在の勝村政信さん。
今秋には蜷川演出による上演時間9時間の超大作に出演されます。
同じ埼玉出身で二ナガワスタジオ時代からの長い関係のお二人、
世代は違うものの戦友が再会したような和やかな対話となりました。

蜷川(以降N) 同じ埼玉県人で、僕のほうがちょっと東京に近い川口です。

勝村(以降K) 僕は蕨です。浦和北高校です。(拍手)

N 川口に40年。僕の時代はキューポラの町で、すごかったです。

K 僕のころも、あの辺に行くのがまだ怖かったです。ランニングシャツが真っ黒になっているおじさんたちがいっぱいいて、鎗物のおいがする。

N 勝村君は羞恥心と子供っぽさといういろいろなものが入りまじっている複雑な矛盾した人格です。時には少年っぽく見せ、時には不良中年に見せ、遊んでいる、若ぶって(笑)。そういうやんちゃ振り、時々逸脱したところが魅力だな。

K 初めて蜷川さんに会ったのが1985年ですから22歳ぐらいです。僕は蜷川さんの劇団に入団して芝居を始めましたが、そのころ蜷川さんはケログの宣伝に家族で出てらっしゃって、初めて

「衰えた自分を見せたくないという思いがある。それが緊張感を生む。そういう若い友人を持ったことは、幸せなことです」(蜷川幸雄)

蜷川さんとお会いしたときに、「ケログのおじさんだ!」と(笑)。それが第一印象です。

N 年1本か2本ぐらい商業劇場で演出をやっている時代だった。

K 昔は箱馬(木でできた箱の台)も投げましたよね。蜷川さんが物を投げるといのは伝説になっていますけれども、僕が見た一番大きいのは箱馬でしたね。

N そういう幸せな時代もありましたね。でも一番大きいのは、音響のテーブル。持ち上げようとしたけど、持ち上がらなかった(笑)。

9時間上演の超大作での役割

K 僕は前に「蜷川さんはどうしてこんなに演出が丁寧になったのですか」という質問をしたら、「イギリスの俳優と仕事をしたから」と。イギリス人は演出家と同じぐらい自分の役について考えてきたりするので、言葉で論破というか、言いくるめないと聞くのを聞かないですからね。

N きちんと説明して、怒るよりもまず納得させるように気をつけた。秋に上演する『コースト・オブ・ユートピア』のように、19世紀の革命についていろいろなことを語った芝居、本質的なことを考え、語り合っている演劇というものは、ちゃんと場所をとっておかないといけない。来年3月さいたまでもシェイクスピアの『ヘンリー六世』で8時間ぐらいの上演があります。ぜひ期待して、待っていてください。

K 『コースト・オブ・ユートピア』も9時間ですからね。

N 勝村君は其中でバクーニンという優秀なアジテーターで、芸術家で、借金ばかりしている、女が苦手なへんてこりんな人物を演じています。ぴったりですね(笑)。

K おもしろい役ですよ。こんな人が本当にいたのですね。

N 主人公の大金持ちとか、大地主の息子が勝村君です。ものすごく魅力的な奔放な少年です。それについての演技の野心はどうなの?

K 基本的に自分の役割はノイズだと思っています。バクーニンは行動力と何か人間的な魅力で持っていく。いつの間にか愛しながらも憎んでいるような不思議な役割なので、どう愛されようかなというのが僕の今回のテーマですね。でも、役をつくる途中で今日みたいにこうして人前で話すことはないですよ。だから、不思議な感じですよ。

悪口を言う俳優はいい芝居をする?

K 僕は蜷川さんのところを途中でやめて、今はまた仲よく戻りましたけれども。

N 勝村君たちとは半分けんかをし、言ってみればやつらに衰えた

自分を見せたくないという思いがある。それが緊張感を生む。そういう若い友人を持ったことは、幸せなことだと思っています。

K 人の悪口を言っている俳優さんは結構いい芝居をしますよね。

N 言った手前、やらなくてはいけないということはあるな。

K やはり人の悪口を正確に、じょうずに言える人はいいですね。今のただいい人は、いい人みたいな芝居をしてしまうからぜんぜん面白くない。悪いことを演じた時に、それを嫌だったとか、気分が悪いという裏め方もあるということを知っているのは、とても大切なのではないかと。今いいこと言っていますね(笑)。

N 問題が多い俳優はいい俳優が多い。ただ、問題が多い俳優ばかりが集まった芝居は、めちゃくちゃになる。性格の悪い俳優は大体3人いればいい。だから今度は、勝村君でしょう、あと2人分だけは抱え込む余地がある。

サッカー仲間がビビッドに反応する挑戦

N すべて平均化された時代になると、自分たちの体験を一体どのようにくぐりながら、すぐれた俳優としての体験を得ることができるのか。また新しい困難に今の若者は出会っているのではないかと思います。

K そうですね。今は演劇も歴史が分断されています。過去のことを知らずに、恥ずかしげもなく過去のことをやっていて、過去の事象をふまえて演劇と組み合わせることもしない。

N そうだね。それは日本の若い演劇についても同じであって、世界状況の中に自分を置いてみるとか、確かなまなざしの中に自分を置いてみる。どうぞ9時間の芝居に来てください。

K 若いサッカーの仲間に「今度9時間の舞台やるんだよ」と言ったら「マジっすか? 俺、行きたいです」とチケットを買ってくれた。若くて探究心がゆたかな奴は反応がいいです。演劇のチケットは間違いなく心のサプリメントです。蜷川さんのスタッフは世界でも5指に入ります。僕らがおられるようなスタッフが集まって、2カ月のエネルギーが凝縮した空間ですから必見です。

N 今日はどうもありがとう。



Profile

勝村政信 かつむら まさのぶ

俳優。埼玉県出身。二ナガワスタジオを経て劇団第三舞台に入団し、1992年退団まで主要メンバーとして活躍。以降、数々の舞台、TVドラマ、CM、ナレーションと幅広く活躍している。近年の主な出演作に、蜷川演出作品では「天保十二年のシェイクスピア」「白夜の女騎士」「コロレイトナス」「表裏源内蛙合戦」、他にTV「監査法人」「コード・ブルー」「瞳」「スマイル」、映画「HERO」「ビルと動物園」「禅ZEN」など。現在、蜷川演出の舞台「コースト・オブ・ユートピア」に出演中。

Photo: 宮川舞子 構成: 中田満之